

㊦. 平成22年度就職先及び学生の意識調査結果

I-1. 【子ども学科：幼稚園・保育園向け】教諭・保育士の採用等に関するアンケート調査結果

1. 調査の趣旨

(1) 調査の目的

保育者（幼稚園教諭・保育所保育士）として求められる人材像とはどのような人材なのか、新規学卒採用時に重要視される資質・スキル、保育者養成校に求められる教育を調査し、今後の学生指導の一助とする。

また、各園における職員雇用に関する考え、働きやすい職場を目指した取り組みを調査し、今後の本学におけるキャリア支援をより良いものに改善することを目的とする。

なお、「IV. 保育者養成校に求められる教育に関する設問」に関しては、高旗・中田・池田（2007）を参考に質問文を作成した。

(2) アンケート調査の期間

平成22年8月27日（金） ～ 平成22年9月17日（金）

(3) 調査対象

社団法人三重県私立幼稚園協会、三重県私立保育園連盟に加盟する幼稚園、保育園

(4) 配布方法

メール便にてアンケート票を発送し、郵便にて回収

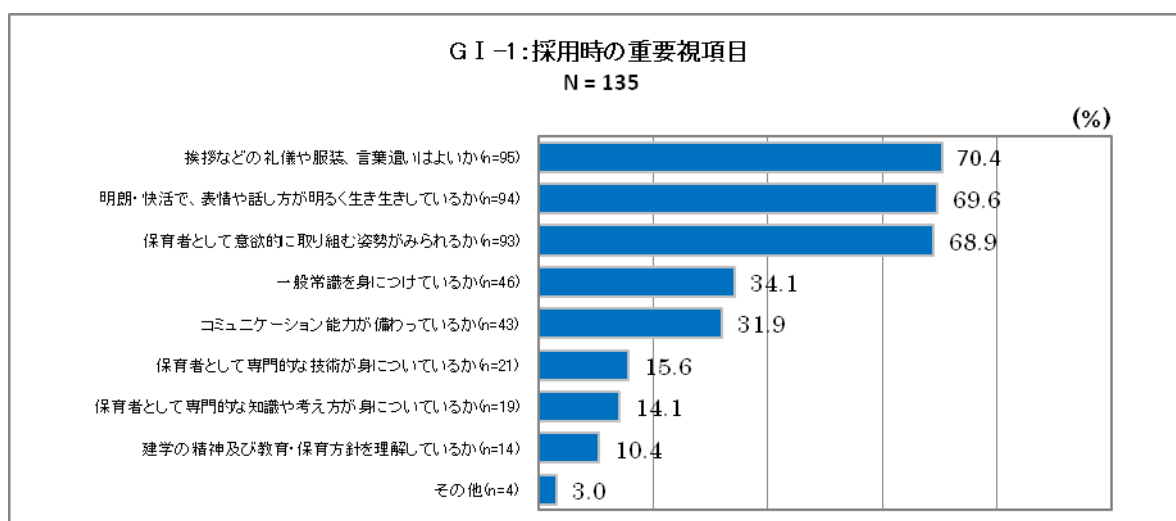
有効発送先数	245 先
有効回答先数	135 先
回答率	55.1%

2. 調査結果

I. 採用試験で重視する項目に関する設問

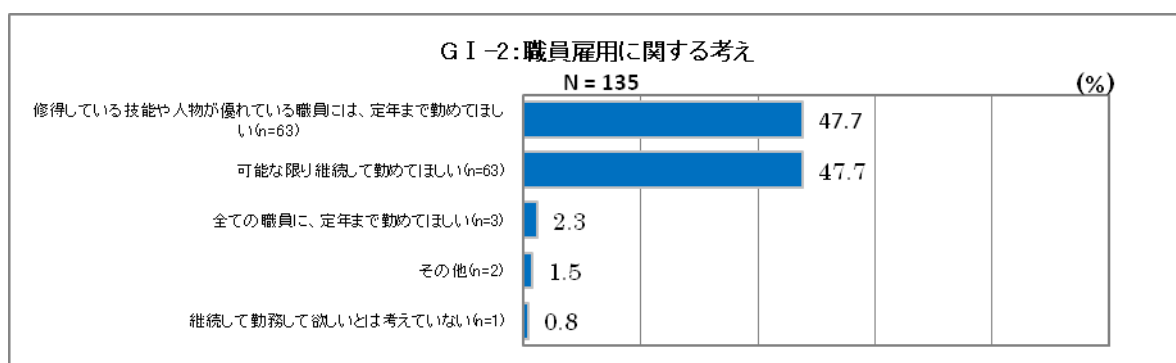
採用を判定するときに重要視している項目は、「挨拶などの礼儀や服装、言葉遣いはよいか」の70.4%、「明朗・快活で、表情や話し方が明るく生き生きしているか」の69.6%、「保育者として意欲的に取り組む姿勢がみられるか」の68.9%であった。昨年度調査結果と比較すると、「挨拶などの礼儀や服装、言葉遣いはよいか」が10%以上上昇していることが特徴である（参照：G I -1）。

以上のことから、保育に関する専門的な知識・技術よりも、挨拶などのマナーや明るいこと、意欲的なことなど、学生の日常生活に関する部分がさらに重視されていることが示唆された。



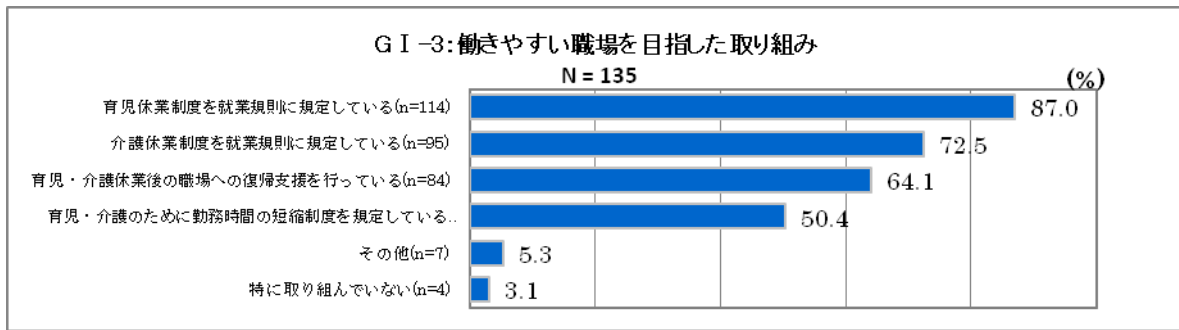
II. 職員雇用の考え方に関する設問

職員を雇用する上での考え方を尋ねた結果、「修得している技能や人物が優れている職員には、定年まで勤めてほしい」、「可能な限り継続して勤めてほしい」が47.7%と同じ割合であり、大多数を占めた（参照：G I -2）。昨年度の再雇用に関する質問項目と併せて考えると、経験を積んだ保育者の需要の高さが示されたと言える。



Ⅲ. 働きやすい職場を目指した取り組みに関する設問

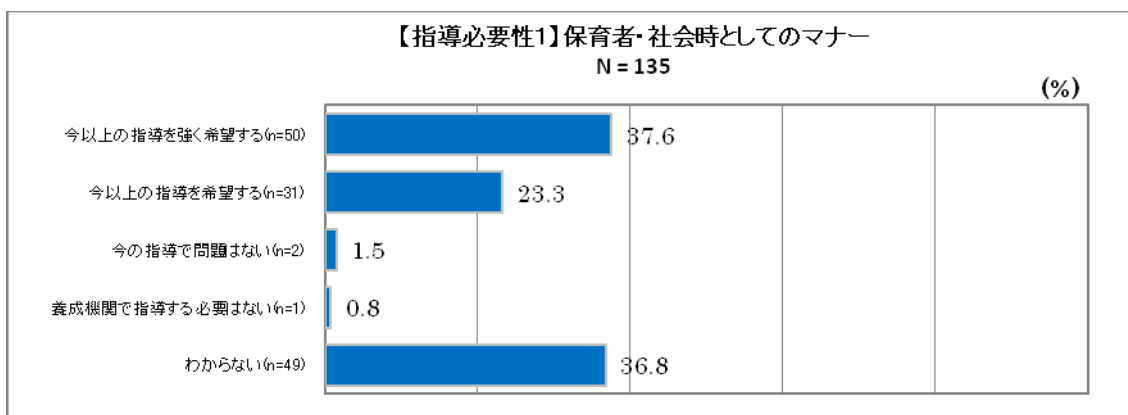
働きやすい職場を目指した取り組みを尋ねた結果、育児休業制度、介護休業制度が多く園で規定されていることが示された。また、育児・介護後の職場への復帰支援も6割以上の園で取り組んでおり、職員個人の事情に配慮している様子が見られる（参照：G I -3）。

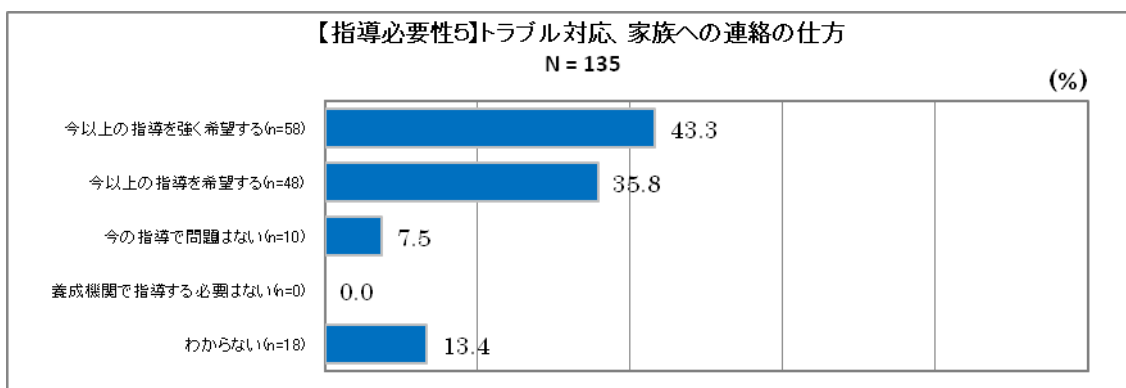
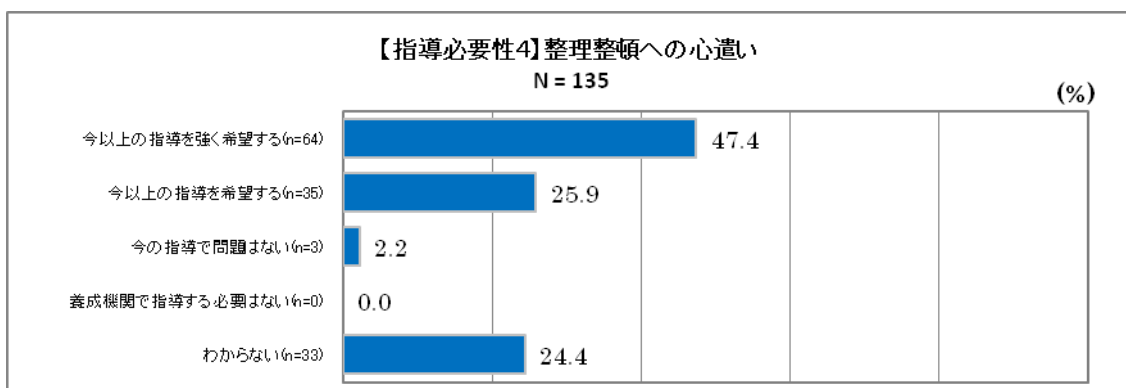
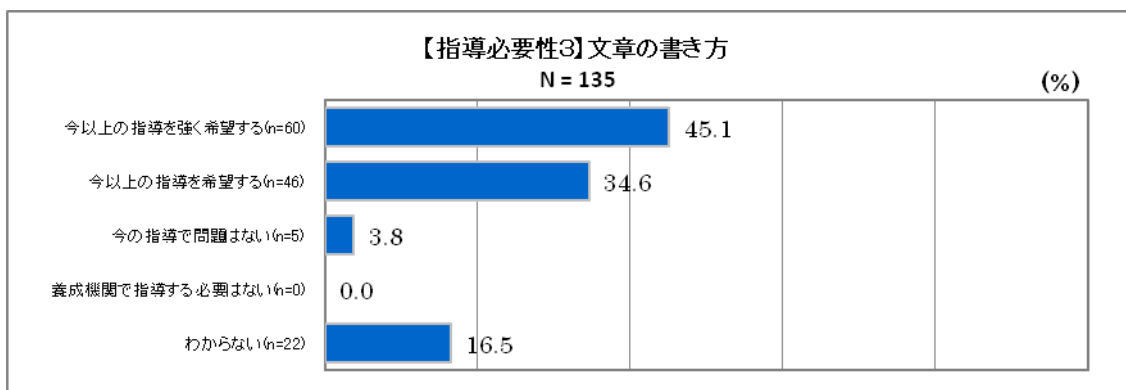
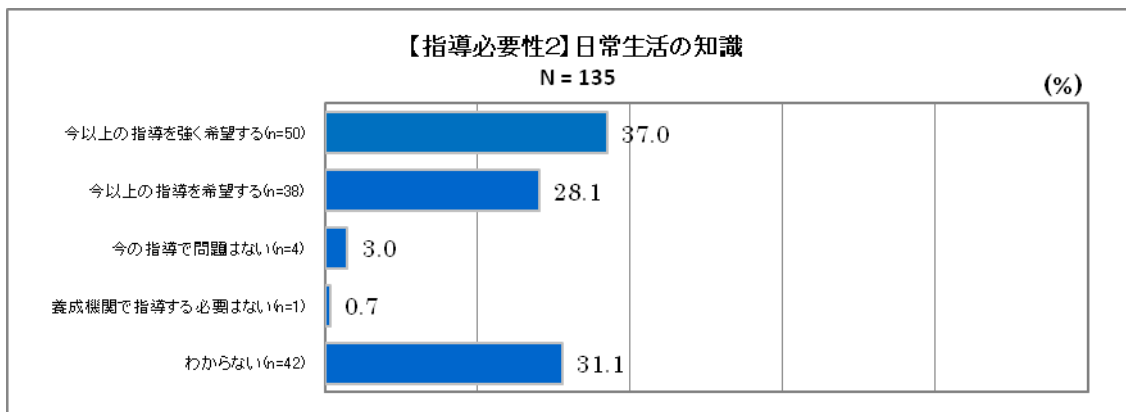


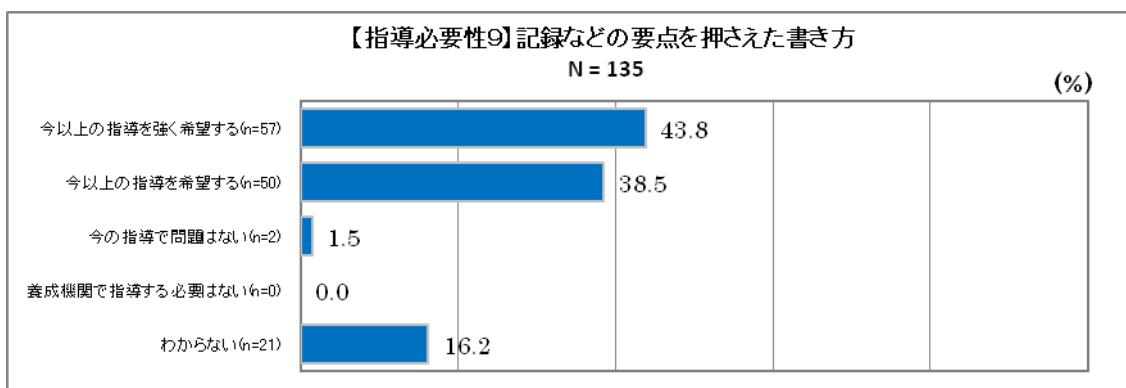
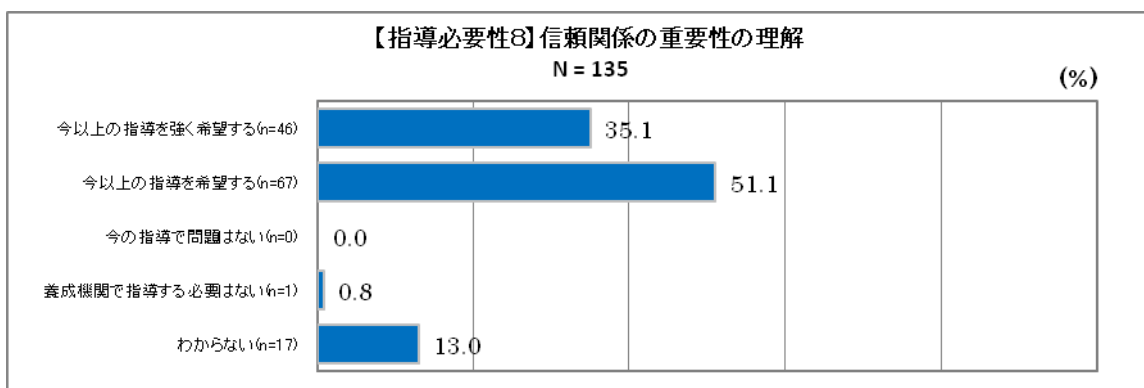
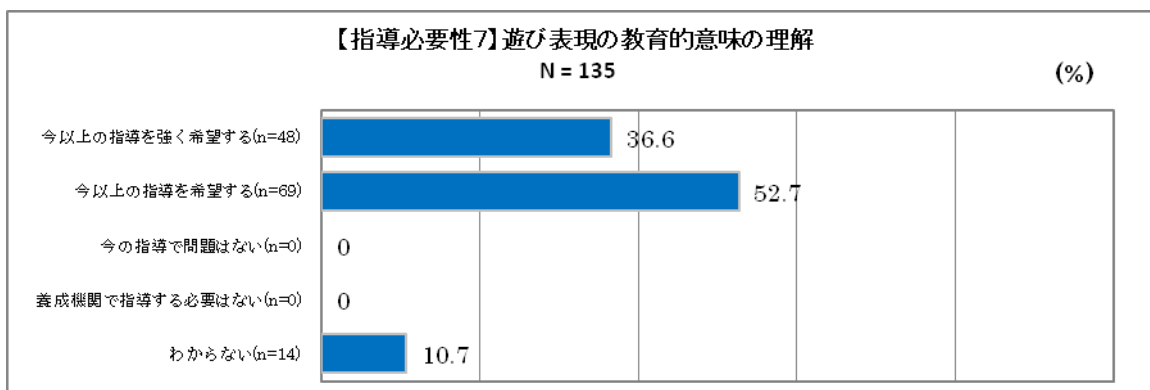
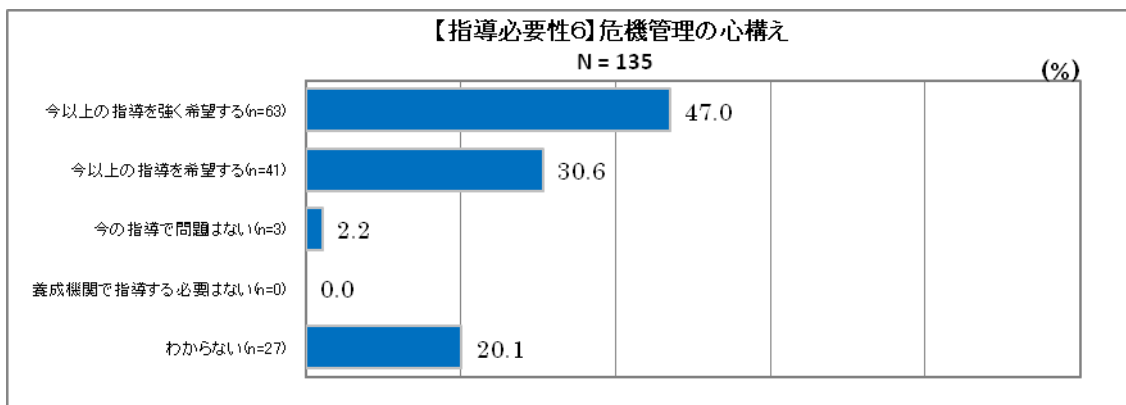
Ⅳ. 保育者養成校に求められる教育に関する設問

保育者養成校に求められる教育を29項目の切り口から尋ねた結果、全項目で「今以上の指導を強く希望する」もしくは「今以上の指導を希望する」が最頻値となった。保育者養成校には保育者としての総合的な能力の育成が求められていることが示唆された。

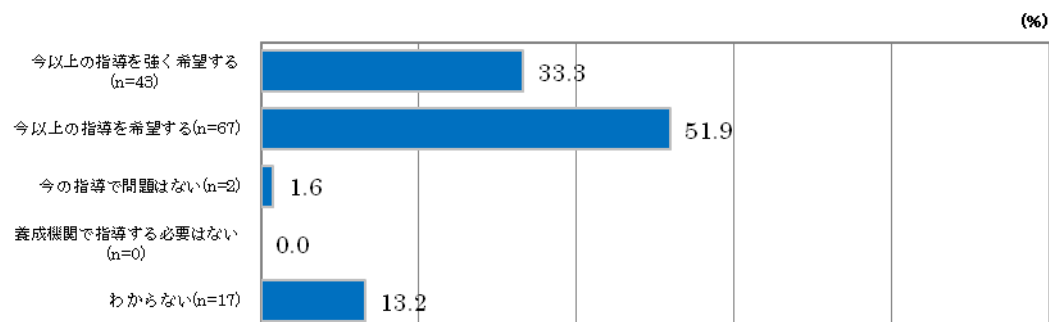
なお、指導必要性29項目のなかで、「今以上の指導を強く希望する」で特に高いパーセンテージを示したのは、「指導の前後に教育研究や創意工夫が重要である理解」(47.7%)、園庭や保育室など、施設の「整理整頓への心遣い」(47.4%)、子どもたちの安全を守るために「危機管理の心構え」(47.0%)、どんな仕事でもおろそかにしないで「やりきる粘り強さ」(46.9%)、お便り帳、クラスの便りなどへの「文章の書き方」(45.1%)であった。



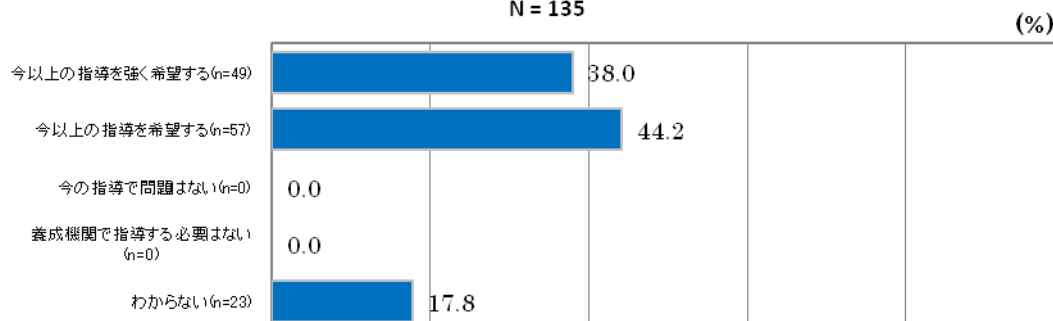




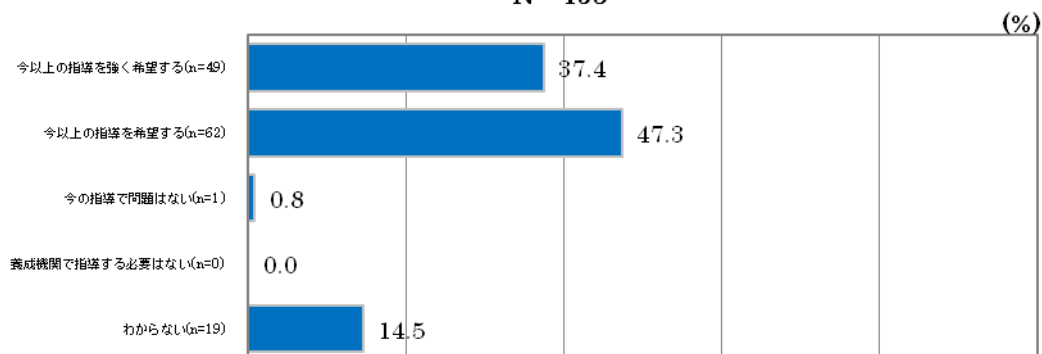
【指導必要性10】 経験・環境との関わりに基づく遊びや表現活動の展開
N = 135



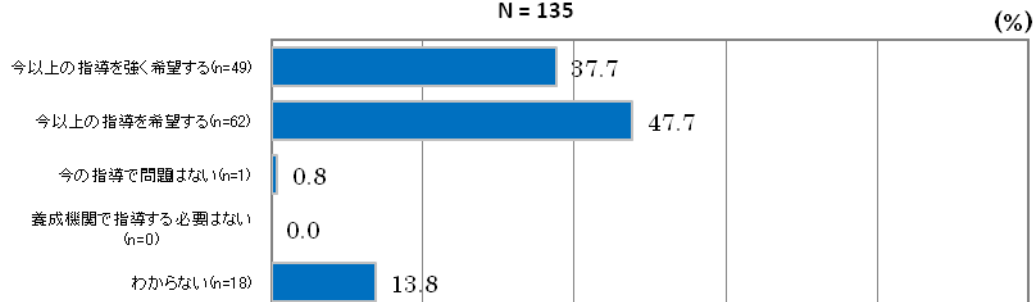
【指導必要性11】 発達に応じた遊び表現活動のレパトリーの多さ
N = 135

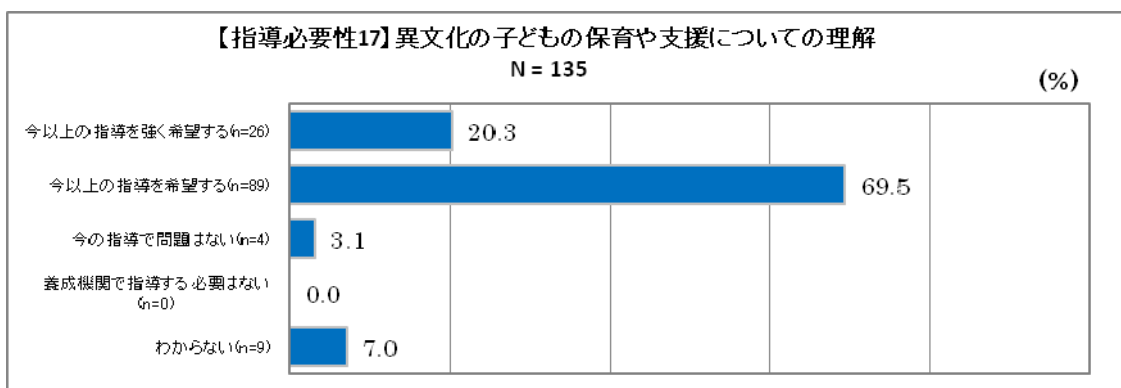
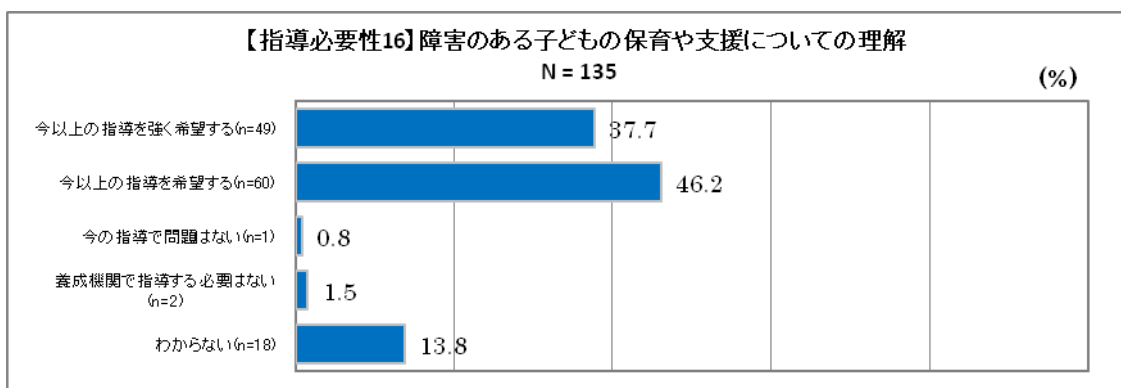
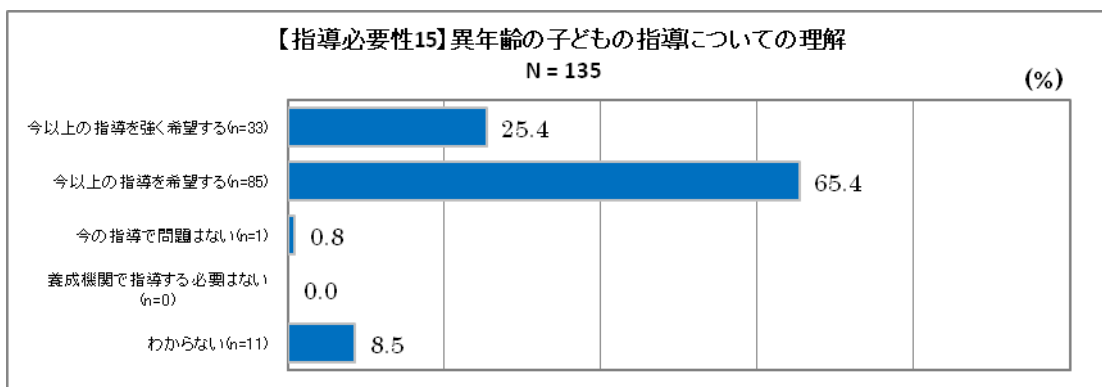
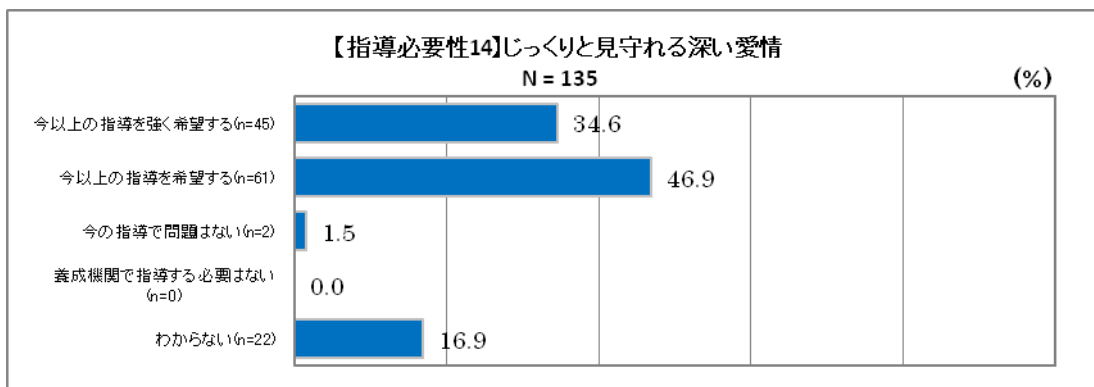


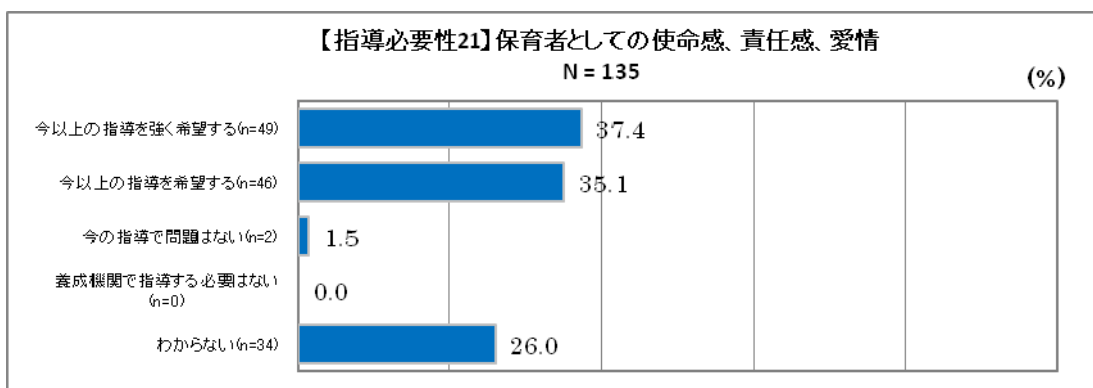
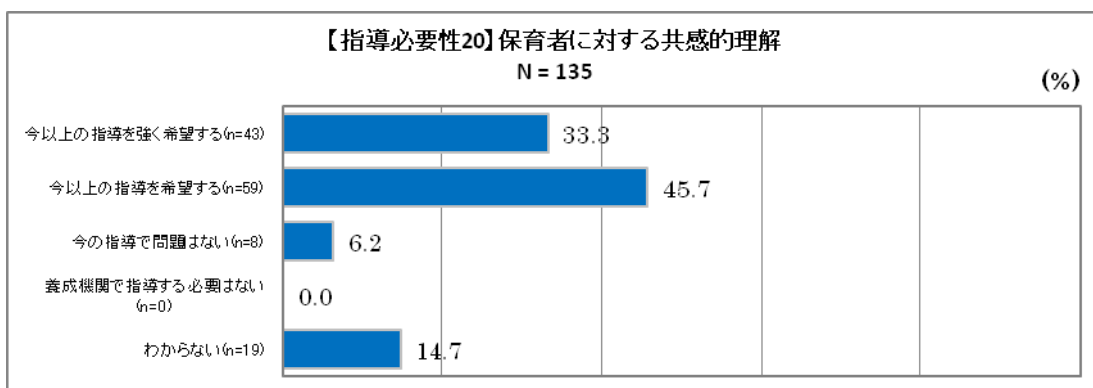
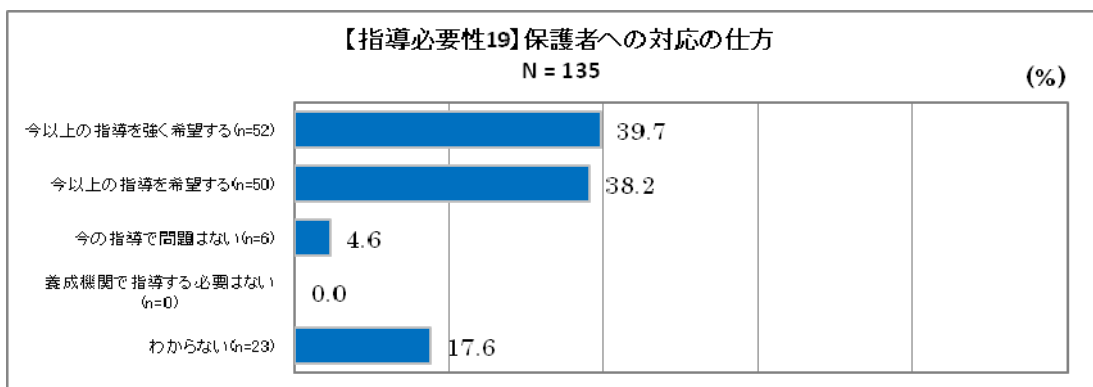
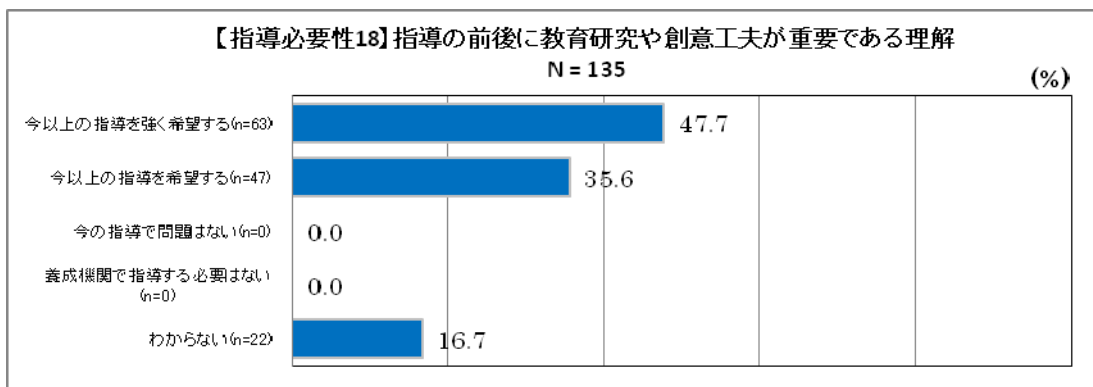
【指導必要性12】 指導計画の基本的な考え方と作成方法
N = 135

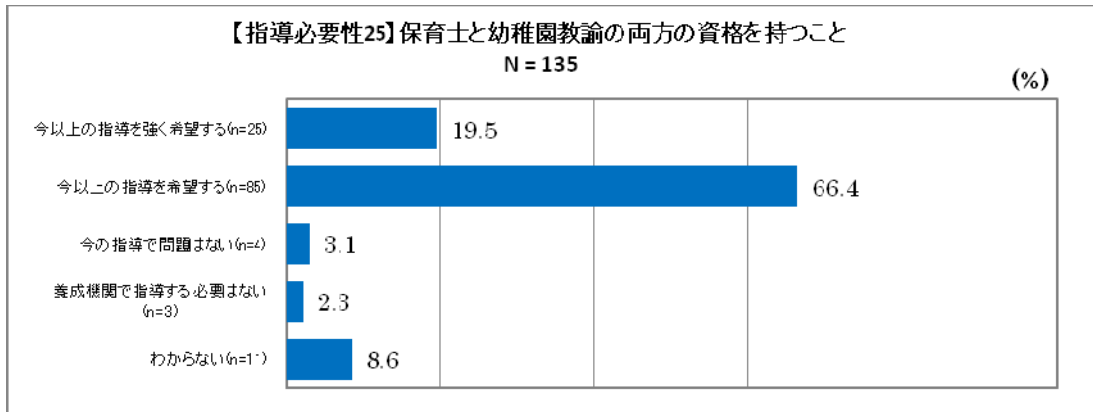
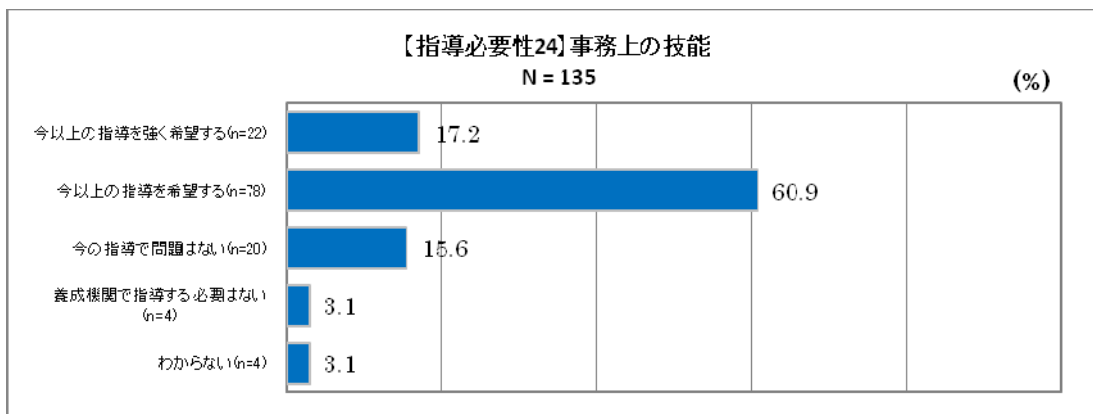
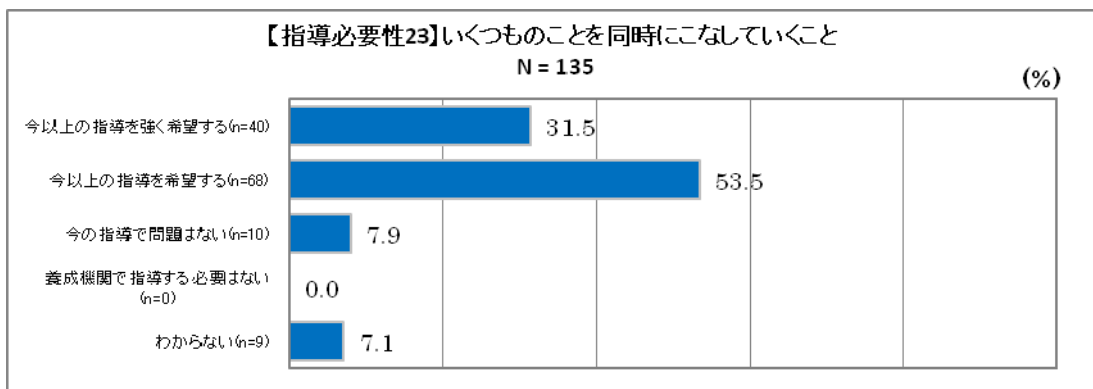
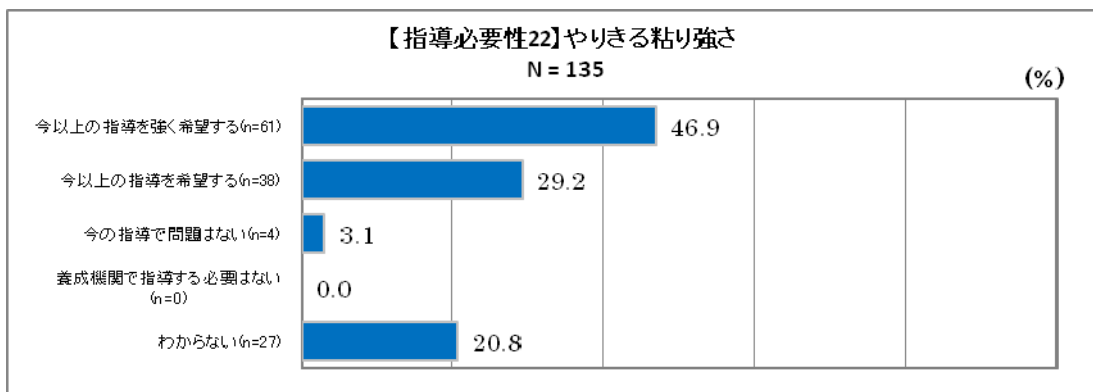


【指導必要性13】 複雑な発展過程の理解
N = 135





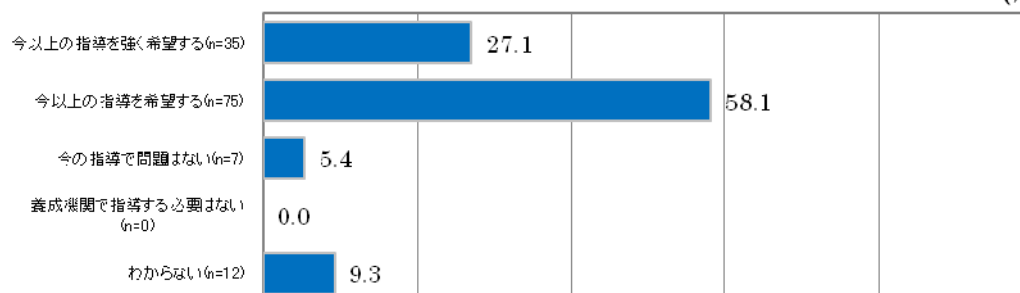




【指導必要性26】会議や研修に積極的に取り組むこと %

N = 135

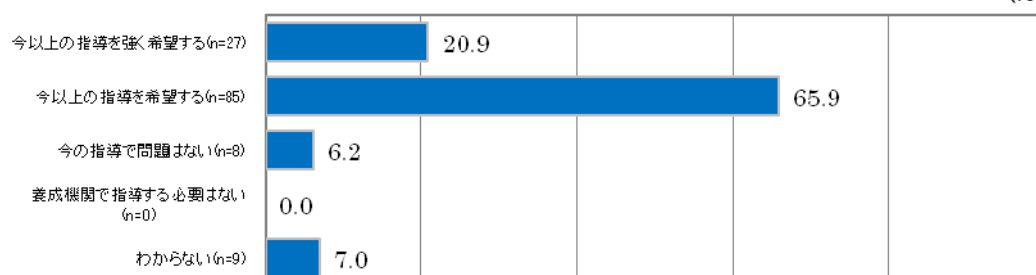
(%)



【指導必要性27】子育て支援事業に積極的に取り組むこと

N = 135

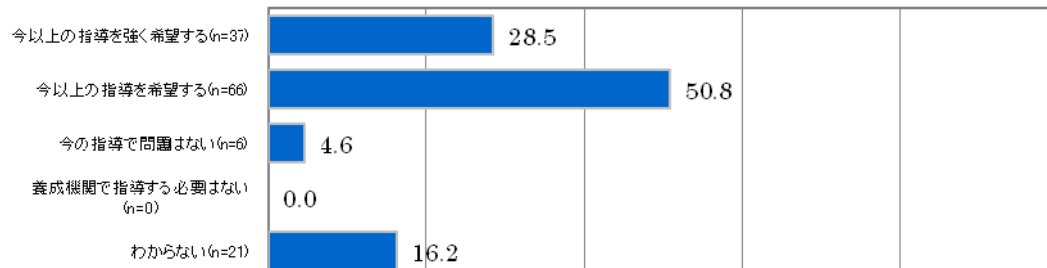
(%)



【指導必要性28】方針を理解し管理職らと協調する姿勢

N = 135

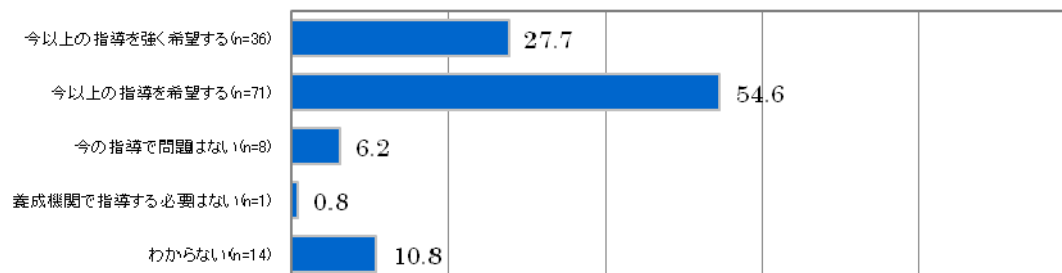
(%)



【指導必要性29】園運営に積極的に参画する姿勢

N = 135

(%)



V. 教諭・保育士養成に関する本学科の取り組み

「Ⅰ. 採用試験で重視する項目に関する設問」の結果から、三重県内の幼稚園・保育所においては、「人」としての極めて基本的な能力が年々重視されつつあることが示された。また、「Ⅳ. 保育者養成校に求められる教育に関する設問」の結果から、保育に関わる多様な力の育成が保育者養成校に求められていることが示唆された。

この傾向は三重県のみでみられるものではないと思われる。保育現場において、質の高い保育者を安定的に確保し、その定着を促進することは、全国的な課題となっている。この課題を克服するためには、(1)職業観の形成の促進、(2)保育現場へのつながりを意識した養成教育、(3)自己理解を促す養成教育が重要であると指摘されている。以上の(1)～(3)の強化を目的として、本学科では大幅なカリキュラム変更を行った。

(1)に関しては、「保育・教職実践演習」を新設することとした（平成 22 年度入学生から）。当該科目は、保育職に求められる①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児・児童・生徒理解、④教科等の指導力について、演習やグループ討議を通して身につけることを目的とする。卒業直前の 2 年次後期に開講することで、学生の保育観の涵養を目指す。

(2)に関しては、厚生労働省による指定保育士養成施設の修業教科目、単位数及び教科目の目標・内容並びに履修方法の改正に伴い、複数の科目の新設・変更を行う（平成 23 年度入学生から）。厚生労働省による改正は、保育者養成や保育現場における諸課題に対応すべく行われたものであり、本学科もその方針に従っている。例えば、新設科目「保育の心理学Ⅱ」では、心理系の科目としては初めてとなる演習形式を取り入れ、観察等を通して子どもの心身の状態や行動を把握する技術を習得し、実践に応用していく力を育てることを目指す。

(3)に関しては、「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」を新設する（平成 23 年度入学生から）。当該科目は、各ゼミ教員の専門性から保育を深め、保育者として必要な資質と専門性を総合的に育成することを目的としている。しかし、それだけにとどまらず、ゼミ教員によるきめ細やかな指導を通して、学生各々の自己理解を促すことも可能である。